

## 第53回愛育班員全国大会 おことば



令和3年10月5日（東京都）

本日、「第53回愛育班員全国大会」の開催にあたり、皆さまにご挨拶できますことをうれしく思います。

昨年は全国大会の開催がございませんでしたが、各地の愛育班の皆さまがいがお過ごしかと思い、母子愛育会から、折にふれて報告を受けてまいりました。

母子愛育会の説明や資料を通じて、これまでのように活動をおこなうことが難しくても、愛育班員が、地域の人々のことを思い、状況に応じて様々な取り組みをしてこられたことを知りました。また、育成者の保健師が、人々の暮らしに寄り添い、感染症への対策をはじめとするお仕事を献身的になさりつつ、愛育班を支えてくださっていることをお聞きしました。皆さまのご努力に、深く感謝しております。

これから本式典において表彰を受けられる会長表彰の受賞者と愛育班員手記の入選者の皆さまに、心からお祝いを申し上げます。

恩賜財団母子愛育会は、昭和8年12月、上皇陛下のご誕生にあたり、母と子が健やかに成長することを願われた昭和天皇の深い思し召しにより、翌年の昭和9年3月に設立されました。今日までの長い年月にわたり、愛育班は、乳幼児から高齢者まで、地域の人々を温かく見守り、やさしい声かけや、なごや

かな交流をおこなってきました。自然災害の後には、被災した愛育班員どうし  
で助け合って地域の被災者を支援し、被災地以外の愛育班も被災者に心を寄せ  
てきました。このような愛育班の活動はまことに意義深く、心強く思っており  
ます。

私は、昨年2月、香川県丸亀市を訪れて、愛育班が地域の住民とともにおこ  
なった親子体操に参加しました。そして、愛育班員や関係機関の皆さまと懇談  
し、子育て中の若い愛育班員が中心となった活動を含む、貴重なお話を伺うこ  
とができました。

また、今年の5月には母子手帳に関する国際セミナーに、9月には妊娠高血  
圧に関する国際学会に、いずれもオンラインで参加して、コロナ禍でストレス  
を抱えがちな妊婦や母親の支援について学び、考える時間を持ちました。日本  
の各地で、愛育班員が地域の妊婦や母親の状況を見守り、保健師をはじめとす  
る専門家と連携して支援につなぐことの大切さを、改めて感じました。

少しでも早く感染症の流行が収まり、愛育班員が安心して地域の人々ととも  
に集い、親しくふれあえる日が訪れることを願っております。そして私も、皆  
さまと直接お会いできる日が来ることを、楽しみにしております。

皆さまが、お健やかに過ごされますよう、そして、これまで育まれて  
きた「愛育の心」が、これからも大切に受け継がれていきますように願い、大  
会に寄せる言葉といたします。